

## 国立工芸館シンボルマーク決定について

国立工芸館（東京国立近代美術館工芸館）（石川県・金沢市）は、国立工芸館シンボルマークを決定しました。

制作はロゴタイプと同じく UMA / design farm（代表・原田祐馬氏）によるもので、ロゴタイプの「工」の余白部分をかたどっています。今後はロゴマークと同様にサイン等に活用し、PRを図ります。

### ■ シンボルマークについて



### ■ ロゴタイプと合わせた活用



国立工芸館  
National Crafts Museum



## 【制作にあたってのコメント UMA / design farm 代表 原田祐馬氏】

『工』の字の余白をかたどることで、シンボルマークをデザインしました。ロゴタイプの考え方とも共通し、『工』の字の上下のラインを支える中心線を際立て、力強さとしなやかさを持たせています。余白のシルエットからは、工芸がつくり出す人の営みや環境を感じられることを目指しています。また、2つの歴史建造物を繋ぐ国立工芸館の建物形状とも呼応させることで、シンボルマークが館の顔の一つとして機能して欲しいと考えています。



写真：太田拓実

## 【UMA / design farm プロフィール】



2007年、原田祐馬により設立。大阪を拠点に文化や福祉、地域に関わるプロジェクトを中心に、グラフィック、空間、展覧会や企画開発などを通して、理念を可視化し新しい体験をつくりだすことを目指している。「ともに考え、ともに作る」を大切に、対話と実験を繰り返すデザインを実践。現在のメンバーは、原田祐馬、山副佳祐、西野亮介、津田祐果、平川かな江、岸木麻理子、高橋めぐみの7人。受賞歴はグッドデザイン2016・金賞、日本サインデザイン最優秀賞、日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク、CS デザイン賞準グランプリなど。  
[www.umamu.jp](http://www.umamu.jp)

---

■報道関係のお問い合わせ先  
国立工芸館  
石川県金沢市出羽町3-2  
Tel:076-221-1955  
Email: [kogei-pr@momat.go.jp](mailto:kogei-pr@momat.go.jp)